迫川での白鳥観察

増　森　彦　介

観察地の概要

宮城県栗原郡若柳町字川北中町７の裏の川（若柳町商店街の中を流れている迫川大橋の上・下流域）

観察の記録

57年10月11日　９時50分、コハクチョウ（以下小と略記）13羽が飛来して着水した。今年は200*m*程下流域に小学校を建築する為にパイルを打込み中で爆音が激しく心配していたが、昨年（10月８日）より４日遅れの本日到着した。今年の４月15日に北へ帰った56年生れの２年子で満18ヶ月目の集団で親はまだの様子である。呼ぶとすぐ集まって来、餌付けすると流れに沈んだ米の上ですぐ眠り４時間後より食べ始めた。

10月21日　夜11時頃当町上空に小の飛来の鳴き声を聞く。

10月22日　朝、餌付けに行く。60羽増え76羽となっていたが幼鳥は３羽のみ。

10月24日　（第４）小－成79羽・幼５羽（３羽と２羽の２家族分）

11月１日　小－成90羽、幼20羽

11月３日　オオハクチョウ（以下大と略記）初認成４羽、幼６羽。２家族で２羽と４羽なり。

11月８日　夜10時頃、飛来の鳴声を聞く。

11月９日　朝９時、５羽の編成で014Ｃ来着１あり。オスが014Ｃのように見える。他にメスと子供３羽。全体の数が184羽なので、この家族だけが飛来したらしい。

＊014Ｃの記録　1978～1979、1979～1980、1980～1981、（つがい）1982～1983の４年、来　（着標記録U.S.S.Rチャウン湾付近68°50′N、170°30′E、1976年８月29日着標、幼鳥なるもSexは不明）

11月13日　014Ｃあり。

11月14日　（第２）大－成２羽・幼０羽、小－成177羽・幼36羽。

11月18日～20日　014Ｃあり。（10、11、12及び17日は県南の阿武隈川に居ったとか。）

11月28日　（第４）大－成３羽・幼０羽、小－成180羽・幼39羽。大は14日の者とはちがう鳥。小は１家族（含幼鳥３羽）が増えた模様。本日は消防演習でサイレンを鳴して消防自動車が町内をはしりまわるが、それでも飛来し着水する鳥がいる。

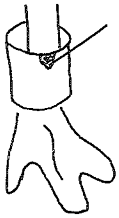
12月１日　橋の上流に10羽着水。

12月５日　大は30羽、20羽の編隊で来ている。越冬地をさがしている様子。

12月９日　２Ｃ74を発見する。12月１日に着水した中の１羽と思う。私とはすでにお馴みさんで、プー一族と呼称。足輪のみ、春には首環もあったのだが。

12月12日　（第２）大－成65羽・幼23羽、小－成254羽・幼53羽。

12月23日　２C74の足輪が破損しだした。今年だけ？かとも思う（観察できるのは）が餌付けするとすぐそばに来るので、中がわのステンレスだけでもわかると思う。



12月26日　（第４）大－成75羽・幼12羽、小－成220羽・幼38羽。

58年１月９日　（第２）大－成252羽・幼42羽、小－成223羽・幼28羽
前日より橋を新しく作る為（川から30*m*のところで）のパイルの打込み開始、ドカン、ドカンの音にもにげださずに居る。

１月23日　（第４）大－成355羽・幼57羽、小－成389羽・幼86羽

２月13日　（第２）大－成467羽・幼72羽、小－成537羽・幼123羽

２月27日　（第４）大－成506羽・幼96羽、小－成477羽・幼85羽

３月６日～７日にかけて30羽、50羽と帰って行く。川の中には米が沈んだままだ。帰る２・３日前からエサの食べ方が悪い。

３月８日　午前10時、大100羽程、北上川を通じて北へ。

３月13日　（第２）大－成215羽・幼38、小－成227羽・幼46羽
前夜来の雨で増水、全員飛び出す。町の上空白鳥の大乱舞。本日より川が増水したので夜は伊豆沼の方に飛ぶが朝に飛んで来るようになる。大・小合わせて350羽位になる。全部が小供又は２年目の幼鳥（亜成鳥）で、まんぞくな鳥は北に帰ったと思う。

３月26日　夜、沼から飛び出して当町上空を旋回、日本海の方に飛び去る。夜100羽程北へ行く。

３月27日　（第４）大－成47羽・幼39羽、小－成98羽・幼43羽
大・小共成鳥は２年目の鳥と思われる。家族は居ない。数字が示すように可愛いい子供だけ残っている。夜、夕方奥羽山脈越えで北へ行く（酒田？）。迫川の他伊豆沼よりも飛び出す。

３月28日　夜、北上川ぞいに大量に北へ帰って行く。

３月30日　夜、迫川上流40羽北へ行く。

４月２日～３日にかけて大雨が降って川が増水し、鳥が流されるので大部分は帰って行った。付近の田などにひなんして居った10羽前後が居っただけ。

４月10日　（第２）大－成０羽・幼４羽、小－成０羽、幼８羽

４月12日　大の幼全部おらず。

４月16日　頃より夜は迫川に居らず、10時にとんでくる。北に行ってもエサがなく、又とんでくるのだろうか。

４月21日　朝、小の幼も全部居らず。
以上で迫川より全部北へ行く。昨年及びここ２～３年は５月～６月まで２、３羽のこったのに本年は早く帰北したようだ。

ま　と　め

○初　認　コハクチョウ　10月11日　成13羽（２年子のみ）

オオハクチョウ　11月３日　成４羽・幼６羽（２家族）

○最高羽数　コハクチョウ　２月27日　成537羽・幼123羽

オオハクチョウ　２月13日　成506羽・幼96羽

○終　認　コハクチョウ　４月20日　成０羽・幼若干

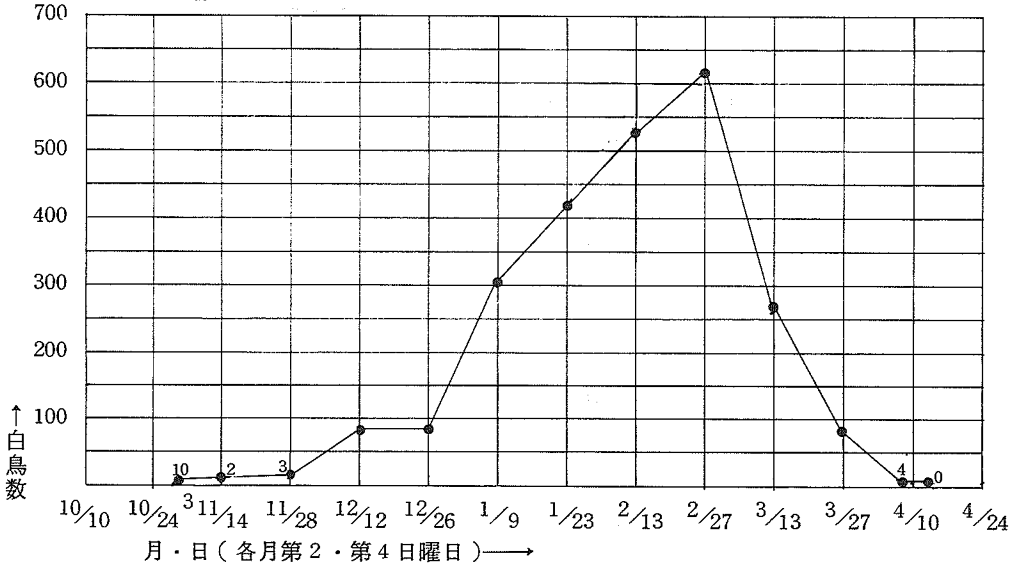
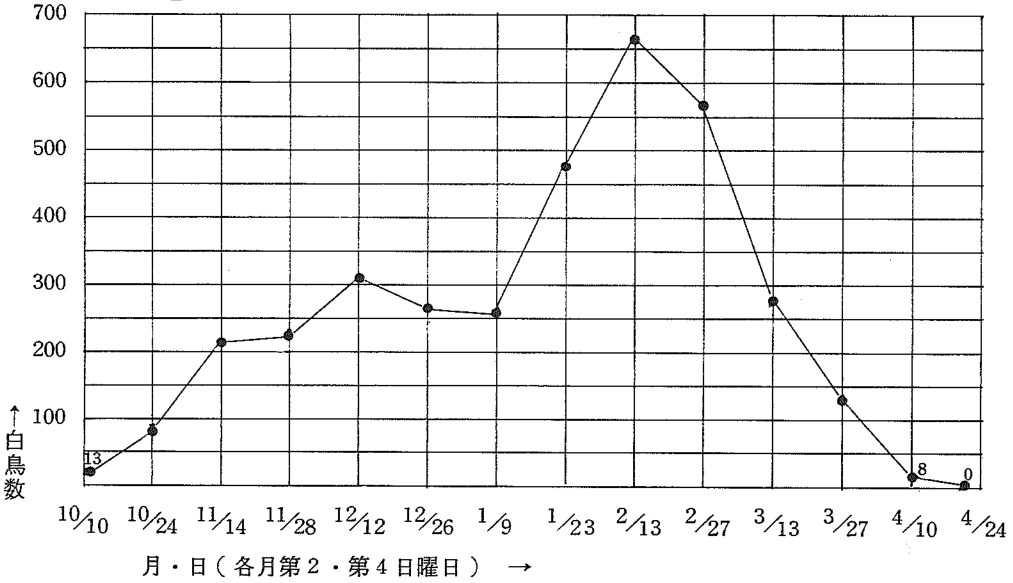
オオハクチョウ　４月11日　成０羽・幼若干

○コハクチョウは早く来て、おそく帰るようである。

○子別れは北帰の前に行なわれる。

○北帰は北上川を北上する群と奥羽山脈を越えて日本海に向う群とがある。オオハクチョウとコハクチョウによる差異だろうか。

オオハクチョウ



ハクチョウ